「萌友」Hさんの講話を聞いて

D学院高校1年生の感想より

2019年度修養会(2018.10か)

私は、高校からD学院に入ってきたので、さとる先生のことは全然知りませんでした。ですが、1時間目にHさんの話を聞いて、ものすごく心優しい方なんだなと思いました。ボランティア部を作り、病気とたたかいつつ、先頭に立って計画を進めて行くさとる先生は、とてもかっこいいなと感じました。

2時間目は、ホームレス支援についてお話しを聞きました。Hさんの話を聞いたり、今日もらった冊子(「神様からのプレゼントは設計図」※)を見て、ホームレスの支援をするということはとても大変なんだなと思いました。衣服や靴はハサミで切らないとぬげない、抱きかかえないと1人で立ち上がることができないなど、本当にかわいそうだなと思いました。

仙台ではあまりホームレスを見かけませんが、もしこの支援を東京などでもやっていたら、たくさんの時間とお金がかかってしまうのではないかなと思いました。

冊子に書かれていた、「ホームレスさんは『孤独』です」という文を見て、とても心が痛みました。若くして親族全員亡くす、幼い頃から施設に預けられて家族も行方不明、親からのネグレクト、親・子・夫・妻たちからの暴力、高齢、病弱など。さまざまな原因で孤独になってしまった人がいると思うと、私も助けてあげたいという気持ちになりました。

(A)

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

Hさんの話しをきいて、炊き出しを始めたのがD学院の高橋さとる先生だということを知りました。また1900年代のホームレスの人数は200人以上いたのに、今では40人くらいと大幅に減ってきていることが分かりました。炊き出しをする団体は複数あり、各団体ごとにかぶらないようにしていることを知りました。また、炊き出しを知らせるのに夜回りをしてそのときにごはんやお土産をもっていくことにびっくりしました。また、ホームレスから普通に仕事に戻った人を気にかけてまた路上にもどった人を支援していることも知りました。実際に現場に行って、その人の声を聞いて、それを実現させるために考えていることはすごいと思いました。市議会議員の方や元ホームレスで自立された方の力をかりながら、無料・低額宿泊所を運営するまでにいたったのはすごいと思います。また、NPO法人「萌友」で、クリスマスや遠足、年越しそばといった年間行事をホームレスの方から提案されて実際に行ったり、畑をつくって野菜をつくったりしていてすごいなと思

いました。また、ホームレスの方が仕事をしたいといったら実際に仕事ができるように支援をしたり、アパートに入りたいという希望があったら、生活や治療、就労などの自立に必要なことを支援していてすごいなと思いました。私はあまりボランティアに参加したりしないのでこれからはたくさんのボランティアに参加していきたいです。

（T）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

今日の講話を聞いて、故高橋覚先生がボランティア部を立ち上げ全力を尽くしていたこと、今回講話をして下さったHさんが所属するNPO法人「萌友」のホームレスの人とのかかわりについての2つの事を知りました。

1回目の講話では、故高橋覚先生とボランティア部との関わりについてで、彼が自らこの学校にボランティア部を立ち上げホームレスの方々への炊き出しなどに部員の皆さんとともに尽力していた様子を語ってくれました。しかし、残念ながら私の入学する前に彼は帰らぬ人になってしまったそうで私は彼を見ることは叶わなくなってしまいました。ですが、Hさんの話を聞いて、一生懸命ボランティア活動に励んだ彼は、その優しさと強さでホームレスの方々もきっと元気をもらったのではないかと思います。病状が悪化してもこのD学院に来て、辛そうでも聖堂朝礼で祈ることを続けた彼を今日の講話で私は尊敬しました。願わくば、彼の姿を見てみたかったと思います。

2回目の講話では、芳賀さん自身と彼女の所属するNPO法人「萌友」のホームレスの方々との活動や交流についてで、彼女達は定期的に炊き出しを行い、季節に合ったイベントを開催するのですが、その炊き出しのメニューがとても凝ったもので、普段はなかなか野菜を食べることができないホームレスの方々のために野菜をたっぷりと入れたみそ汁とポテトサラダを出しています。それだけではなく、帰りにはフードバックを渡すなど素晴らしい対応だと思いました。そして、季節に合わせたイベントではクリスマス会や年越し会など多様なイベントがあってとても考えられているなと思いました。このような彼女達の活動の背景にはホームレスの方たちの路上死や凍死が今でも絶えないことや、保証人などでアパートに住むことのできない人達がいます。私は、彼女達の活動によってこのような人達が減っていることを誇りに思い、応援したいと思いました。

（M）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

Hさんからさとる先生の話、炊き出しの話を聞きました。

さとる先生の話では、さとる先生がとても心の優しい方だったと改めて思いました。私はあまりさとる先生に関わることが少なく、廊下であいさつをする程度でした。あいさつ

をする時も毎回優しく返してくれて、関わることが少ない私でも優しい先生だなと思っていました。今日、さとる先生の心の優しい話を聞いて改めてここまで他の人につくすことができる人はいないなと思いました。他の人が困っていたら、助けるということができる人はすごいと思います。そして、自分より他の人を優先というところもすごいと思いました。普通の人は口でやると言うだけで、できない人は沢山いると思います。けれど、さとる先生はそれを言い、実行できているのがすごいと思いました。私は将来、さとる先生のような心の優しい大人になり、色々な人の手助けをしたいです。

炊き出しの話では、炊き出しをするにも大変なことが沢山あるなと感じました。私は炊き出しは公園でやるということが考えにあったので、教会や施設を借りて炊き出しをしているとは思いませんでした。そして、ホームレスの方のために、おいしい食べ物を作っていたりするのがすごいと思います。そういう炊き出しをしているところを見たことがないのであまり分からないところがありますが、ホームレスの方はおいしいご飯を求め、Hさん達に会い、そこでコミュニケーションをとっているのではないかと思います。Hさん達はホームレスの方と明るく優しく向き合いとても素敵だなと思います。

これから、大人になり周りの生活が変わると思います。今日学んだことを活かし、周りの人を大切にし、困っている人がいたら助けたいです。

また、Hさんの講話を聞きたいです。

（K）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

今日、修養会があって、Hさんに講話をしていただいて、心に残ったお話が、2つありました。

まず1つ目は、Hさんと高橋覚先生との交流があったことです。私は中学校からD学院で、覚先生の授業を受けることはなかったのですが、剣道部だったので朝の練習の時に稽古をつけていただいていたので、Hさんのお話を聞いて、覚先生は本当に人のために何でもしようと考え、行動できるすばらしい方だったんだなと今日、改めて感じました。

次に2つ目は、ホームレスの方へのご飯の炊き出しや、夜回りなどのことです。私は、ホームレスと聞くと悪いイメージを想像してしまいますが、今回、Hさんの講話を聞いて、ホームレスの人は、全く悪い人ではなく今を一所懸命に生きているんだなと思えました。そして、HさんやD学院の生徒たちが行なっている「炊き出し」は、ホームレスの方たちにとって生きがいなのではないかと思います。ちょっとしたボランティアで、沢山の人を助けることができるのは本当にすごいことなんだなと感じることができました。

（N）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

私は今回、中学校から数えて4回目の修養会でした。毎年、様々な先生方から色々な貴重なお話を聞く事ができる行事で今年も、とても楽しみにしていました。

今回、お話しをしてくださった先生は、NPO法人萌友設立者で聖ドミニコカトリック北仙台教会信徒である、Hさんでした。

どんなお話を聞けるのかな、と、とても楽しみにしていた今年のお話は、テーマが「小さな人々とともに」という、ホームレス支援を通してのHさんの経験や、感じた事のお話でした。この「小さな人々」というのは身長などではなく、社会的に貧しかったりする人々の事で、しかし、神様は、そのような立場の人々を、とても祝福されると、Hさんがお話の最初で語っていて、なるほどなと、思いました。

その他にも萌友設立までの道のりや、実際のホームレスの方の事や、炊出しの事、故高橋覚先生との思い出などを、写真なども使い、お話をしてくださりました。

今日の修養会も、短い時間で沢山の実りある濃い話を聞く事ができ、福祉のボランティアなどにも興味がわいたので調べようと思いました。

今日のお話を、忘れないで、これからも過ごしていきたいと思います。

（R）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

今日の講話を聞いて、ホームレスが仙台にもたくさんいる事がわかりました。

ホームレス、聞いたことはあっても実際に今日の講話で聞いて仙台にも居るという事は今まで知りませんでした。

北仙台教会のHさんの話を聞いて夜のみまわりでは、ホームレスの方とゆっくり話したり、お土産を持っていったりしたり、講話の話しで、夜回りをしていて、ホームレスの方から「ありがとう。」と言って百円をくれると言う話しに驚きました。お金も余り持っていないはずなのにボランティアの人に全財産をあげているようなものなのにっと私は思いましたが、そのホームレスの方はそれ程ボランティアの人達が良くしてくれる事に感謝しているんだと思いました。余り、ホームレスと聞いていい印象がなかった私でしたが今日の講話で、おもしろい方がいるんだと思いました。

他には、炊き出し活動では、ご飯を作ってホームレスの方に出している事です。

炊き出しの際に場所がとれないときは、イスが無く、立って食べるなどとても大変だと思いました。

今日もらった「神様からのプレゼントは設計図」でホームレスさんの声を聴いた！で、炊き出し開始直後にホームレスさんから「おれ、仕事したい」「生活保護を受けたい」など相談があったとあって、やっぱり、今の生活ではなく自立したいと頑張っているんだと感じました。

今日の講話を聞いて、たくさんのことが分かりました。
私は、人と話す事があまり得意では、ありません。ですが、今日の話を聞いて、自分にも何か手伝えることがあるかもしれないと思いました。小さな事でも、ジミチでも、頑張ってホームレスの方々を支えているボランティアの方々が凄いと思いました。私も誰かのためにいっしょうけんめい頑張れるようになりたいと思いました。

（S）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

高1からボランティア部に入って、1回だけですが、炊き出しのボランティアに参加したことがあります。Hさんの講話を聞いて、そのときのことを思い出しました。私は、炊き出しボランティアに参加するまでホームレスの人と関わる機会が全くありませんでした。いつも公園にいて、怖い人というイメージでした。ですが、ボランティアで作った食べ物を配ったり、サイズごとに分けてある洋服を配りながら、ホームレスの方々と話をすることができました。誰と話しても感謝ばかり。怖い人というイメージもなくなり、炊き出しボランティアに参加してよかったなと改めて思いました。
ホームレスの方々はいつも孤独だと、Hさんが話していました。生まれたときから母と父に守られながら育ち、幼稚園、小学校、中学校、そして高校と、先生と友達にめぐまれて通うことができています。友達に裏切られて、友達という存在を信じられなくなったとき、孤独という世界をあじわいました。ホームレスの方々の中に、心の傷を抱えながら生きている人もいるはずです。いったん路上から出たということ自体が孤独という言葉を聞いて、社会常識から考えて、住所のない人を雇うこと、保証人のいない人に家を貸すのは無理ということです。
炊き出しボランティア、今日のHさんの話、このような体験を大切にして、ホームレスの方々が今より少しでも一歩前に進めるように、これからも炊き出しボランティアに参加してお手伝いしたいです。

（Y）

❀ ✿ ❀ ✿ ❀

今回で修養会を受けるのは4回目になります。中学の時とは異なり2年生と合同でした。
今までの修養会の神父様の講話は中学生の私たちにでも分かる言い回しやためになる説教を話していただいたのを覚えています。
高校生になって初めての講話はすごく身にしみました。私たちにホームレスの方の支援の話を聞かせていただきました。お金もなく家もなく働きたくともなかなか雇ってもら

えないそんな人たちを支援している話を聞きました。
　ホームレスの人を3日間あずかりご飯を与えたら元気になった人の話、普段のすごし方、行事のことまで教えていただきました。
　自分は、お金がなくても帰れる家があることがホームレスの方たちの心の支えともなっているのかと思いました。
　わたしもボランティア部で炊き出し活動に行き数十名ほどのホームレスの方たちが来ていただいたことがあります。
　普段、お腹を空かしているぶんホームレスの方たちは何回も列に並びとん汁をもらいに来ているのを見て美味しそうに食べている姿を見て頑張ってよかったと思いました。
　ボランティアの人たちは私たち以外にいろんな国の人、学校の人が集まっていました。
　いろんな国の人とも交流し仲良くできて楽しかったです。
　炊き出し活動は日頃できないことなのですごく良い経験をさせてもらったと実感した1日になりました。修養会で聞いた話を心にとめたいと思います。

（H）

❀　✿　❀　✿　❀

　教会の方達が炊き出しをしてくださっているのは知っていたけれど、夜まわりまでしているのは今日初めて知りました。冬は特に冷えこむ中で他の為に活動されるのは本当にすごいなあと思いました。
　また、「萌友」さんでは座ってお食事会を開いていることも炊き出しのイメージとは全く違い、びっくりしました。私が以前お手伝いさせていただいた公園での炊き出しは雨が降っていてごはんを急いで食べたためあまりコミュニケーションをとることができませんでした。だれかと一緒に食べることは心の健康にもつながると思うので屋内で安心してごはんを食べられるところがもっとたくさんできてほしいです。
　今は教会に所属している方がとても頑張ってくださっていますがいろいろな面で無理がでてくると思います。だから、社会全体でホームレスの方達を日常生活が送れるように支援する必要があると感じました。具体的にはフードバンクをみんなでもっと活用することが身近でやりやすいと思います。今はあまり浸透していないのでもっと当たり前にできるようになってほしいです。
　私はボランティア部で活動するとき、「やってあげなくちゃ」と思いながら活動をしていましたが今日のお話しを聞いてそれではいけないということが分かりました。私よりも、大変なことをたくさん経験してきた方と関われることに感謝の気持ちで、Hさんのように相手に対してまことをつくしていけるように今後のボランティアでがんばりたいです！

（RY）

❀　✿　❀　✿　❀

今日の修養会での講話を通して思ったことがいくつかありました。まず1つめは、ホームレスの方を見る目が変わったことです。私はこの講話を聞く前でのホームレスの印象は「怖い人だな」とか「かわいそうな人だな」等と思っていました。だけど、講話を聞いたあとでのホームレスの印象は、「頑張ってるんだな」とか「日々を誰よりも一生けんめいに生きてる人達だな」という、聞く前の印象と180度真逆になりました。ホームレスは、聖書の中で言う弱い立場にあって、それでも頑張って生きていくという力があるのは、すごいなと思いました。「生きているだけでも立派」という言葉の意味が改めて分かった気がしました。もう一つは、人間関係の交流です。講話でも言っていた「人は一人じゃ生きていけない」という言葉が特に印象に残っていて、確かにそうだなと実感しました。実際、私は、何かしらの物事に取り組むとき「一人で出来る」という言葉を親の前でしょっちゅう言っているのですが、今思えば結局は一人では何も出来なくて、何時も親のサポートがあって成り立っているという事に気づかされました。学校生活でも、「一人で休みを過ごせる」という人でも、結局は「誰かに頼る」ということを無意識にしていたりします。一人にならない為には、やっぱり自分から行動をするべきなんだなと講話を通して学びました。

来年の修養会でも、今よりもきっと聖書や人間について学べていると思うので、それらの知識を活かして次回の講話の話しを聞きたいです。

（W）

※「神様からのプレゼントは設計図」（「福音宣教」　2018.7）･･･　7p.　中に「ホームレスさんの声を聴いた！」「ホームレスさんは『孤独』です」の小見出しあり。